時論公論 Ⅲ

高市氏、日本初の女性首相
～自民党と維新の連立政権～

政治アナリスト
元杏林大学教授
豊島典雄

大嵐の中の船出

高市総裁が10月21日に首班指名され組閣した。日本初の女性首相である。自民党と維新の会による連立政権（閣外協力）である。政策面では自民党が維新に大幅譲歩した。

日本初の女性首相であり、支持率は極めて高い。

しかし、自・維の両党だけでは両院で過半数を確保できず少数与党である。

大嵐の中の船出で、積み荷（議員定数削減等）は重い。幕末に維新回天を成し遂げた長州の吉田松陰一門の『狂』の精神が求められる。

なお、国民民主党の玉木代表はあわよくば首相の座をと踊ってみたが、取らぬ狸の皮算用に終わった。

日本を再起させたい

維新の会は閣外協力であり、内閣の顔ぶれは、茂木敏充外務相、片山さつき財務相、赤沢亮正経産相、林芳正総務相、小泉進次郎防衛相、小野田紀美経済安保相、木原稔官房長官等である。

高市首相は「この内閣は決断と前進の内閣だ」「日本を再起させたい」と言う。

多難な船出だが、高市首相の心は「今やらねばいつできる。わしがやらねばたれがやる」（平櫛田中）だろう。

狂ってください

そして、新首相の任務は重い。

①連立のパートナーの維新に約束した政策を実現する。

②自民党内の融和をはかり、全員野球を目指す。総裁選のライバルも閣内に取り込み形はできた。

③次期総選挙で衆院の過半数を取り戻す。

狂ってください

参院選後の政治空白を埋める早急な政策の推進が求められる。まず物価高対策だ。

新政権は臨時国会をどう乗り切るか。少数与党であり、野党の求めるガソリン暫定税率の廃止、消費税減税、所得税の減税、給付付き税額控除、社会保険料の引き下げ、手取りを増やすなど様々な要求に対応しなければならない。

連立政権を維持するためにはまず維新の会が絶対条件とする『議員定数の1割削減』を処理しなければならない。比例区の削減だから小党の猛烈な抵抗は必至である。

維新の会の求める「企業・団体献金の禁止」も、実施したら自民党の基盤を揺るがす。

維新の会の求める食料品の消費税率2年間ゼロも、年5兆円の税収減であり、財務省が猛反発し先送りのようだ。

最も大事なのは少子化対策と『サナエノミクス』による日本経済の活性化だ。〝サナエあれば憂い無し〟になるかだ。

サッチャー元首相は落日の英国経済を立て直し〝鉄の女〟と言われた。高市さんは『責任ある積極財政』で日本の鉄の女になれるか。

「高市さん狂ってください。これからあらゆる抵抗があります。それを押し切って日本の大改革のためにはある種の狂気が必要です。そのた

めには私たちは国民に覚悟を示すんです」（維新の会・藤田文武共同代表）。

女は度胸

サッチャー政権発足時は、慢性的なインフレと経済低迷に加え、労働ストが頻発し、国民生活が混乱し、国政が衰える「英国病」にかかっていた。我が国も最近まで〝失われた30年〟と言われ、〝日本病〟に苦しんでいた。

サッチャーは家訓の質素倹約、自己責任・自助努力を父親から引き継いで国の再生に邁進した。

サッチャー語録には

「強者を弱くすることよって弱者を強くすることはできない」

「政治において言ってほしいことがあれば、男に頼みなさい。やってほしいことがあれば女に頼みなさい」

「大英帝国の旗の下、祖国に救援を求める国民が1人でもいる限り、我が国政府が見捨てることは絶対にない」

「敗北？私はその言葉を存じ上げません」

「お金持ちを貧乏にしても、貧乏な人はお金持ちになりません」

「お金は天から降ってこない。地上で稼ぎ出さねばならない」

「女性運動を声高にやる人は嫌いです。男女の別に関係なく、人間は実力で決まる」。

今の日本にはこんな胆識のある首相が必要である。『女は度胸』の高市首相は日本のサッチャーになり日本を元気にできるか。

保保対決

次期衆院選は自民党と参政党で保守票の奪い合いになる。世論調査でも内閣支持率や自民党支持率が上がると参政党や国民民主党の支持率が下がっている。

ヨーロッパでは外国人政策の厳格化を唱える政党が躍進している

英国では支持率第1位は反移民のリフォームUK27％、労働党20％、保守党17％という世論調査もある。落ち目の保守党から国会議員がリフォームUKに移籍している。

反グローバリズムの潮流に乗り外国人政策の厳格化を唱える参政党の躍進の可能性はある。リベラルな石破総裁から保守派の高市総裁に転換した自民党と参政党は保守票の奪い合いになる。

若者の内閣支持率が8割

世論調査はどうか。

NHK（10月14日発表）では、高市早苗氏に期待する52％、期待しない44％。40代以下で期待するは70％台。

政党支持率は自民党27・4％（0・5ポイント減）、立民5・6％（0・6ポイント増）、国民民主4・8％（0・9ポイント減）、参政党4・5％（1・8ポイント減）。自民党の支持率は80歳以上では40・3％。

時事通信（10月16日発表）では、高市総裁が首相に選出された場合、高市内閣を支持する43・8％、支持しない23％。18歳～29歳の若者の支持率は58％。

政党支持率は自民党19・7％（2・6ポイント増）、参政党4・8％（1・1ポイント減）、3ヵ月連続で野党首位。

共同通信（10月22日発表）では、高市内閣支持率64％、不支持率23・2％。

読売新聞（10月22日発表）では、内閣支持率71％、歴代5位。不支持率18％。若年層の高市内閣支持率は実に80％。石破内閣では15％だった。

政党支持率は自民党32％（9月は27％）、立憲民主党6％（5％）、日本維新の会5％（2％）、国民民主党5％（9％）、参政党7％（8％）。

毎日新聞（10月26日）では、内閣支持率は65％、不支持率は22％。

日本経済新聞（10月26日）では、内閣支持率74％。歴代2位。石破内閣最後の9月調査から37ポイント上昇した。若者の支持率は8割。

テレビ朝日（10月27日）では内閣支持率は58・7％（24・4ポイント増）、不支持率21・8％（25・3％ポイント減）。自民党支持率は37・4％（4・2ポイント増）。

―高市丸の出だしは良い。ロケットスタートだ。しかし、維新の会との二人三脚が上手くいくか。永田町では「解散と公定歩合については嘘を言っても良い」と言われる。歓宴長く止まるべからず。良いことは長く続かない。早期の衆院解散で衆議院の過半数を確保し政権基盤を固めるべきだろう。